令和7年度
【加古川市】認知症地域支援推進員活動報告

【加古川市】の認知症地域支援推進員について

1　認知症地域支援推進員：6名

2　認知症地域支援推進員の役割

- 担当地域内の認知症の人やその家族を支える取組みを進める。
- 認知症早期発見・早期受診、早期ケア体制を実現するため、センター等で早期発見チェックを実施し、疑いのある人にかかりつけ医や認知症相談医への受診を勧める。
- 認知症の人や家族が安心して生活できる地域づくりのため、行政、認知症疾患医療センター、医療機関、介護事業所等の関係機関及び地域との連携を図る。

報告者氏名：高齢者支援課：松尾　優
地域包括支援センターかこがわ北：宮永由加里

【加古川市】認知症施策全体図

	具体的な施策
①理解の増進等	認知症サポーター養成講座、認知症キャラバンメイト養成講座 認知症イベント（講演会・映画等）、認知症教室
②バリアフリー化	認知症高齢者等の見守り・SOSネットワーク 見守り協定・見守りサービス、位置情報履歴発信機器（見守りタグ）利用補助負担、移動支援、交通安全
③社会参加の確保	認知症カフェ、若年性認知症の人への支援
④意思決定の支援及び権利利益の保護	成年後見制度、消費者被害防止等
⑤保健医療サービス及び福祉サービス	認知症早期発見チェック、認知症初期集中支援チーム
⑥相談体制の整備等	認知症に係る相談・支援、警察からの認知症に係る支援対象者情報提供による相談、認知症ケアパス等、 介護者の集い、家族会
⑦研究等の推進等	認知症地域支援推進員連絡会、キャラバンメイト連絡会 東播臨海地区認知症連絡会
⑧認知症の予防等	いきいき百歳体操、高齢者サロン、老人大学等

【加古川市】R7年度認知症地域支援推進員具体的活動報告

テーマ番号<⑤> 認知症の人本人の社会参加・発信への支援 ～本人ミーティング～

当地域包括支援センターでは令和元年から本人ミーティングをスタート
きっかけは**「喫茶店でコーヒーをのみたい」**という声から

その後…

コロナ感染拡大により中断

令和5年に再開

令和5年　2回（茶話会）　　令和6年　2回（茶話会・歌）
茶話会のテーマ「物忘れについて」「免許返納」「子供の頃の遊び」「昔していたスポーツ」「やってみたいこと・興味のあること」等々
令和7年3月　参加者から「花見に行きたい！」「カラオケがしたい♪」との声があり、その場で企画し場所・日時を決定

みんなでのお花見楽しみ！でも…

「いつもと違う場所だけど、ちゃんと来れるかな」「時間を間違えないかな」
「雨が降ったらどうしよう」地域包括スタッフで何度も話し合い

対応
- おひとりで来る方はスタッフが迎えに行こう
- 雨が降ったら包括併設の会議室で開催しよう

令和7年度　年4回開催

1回目　本人ミーティング

場所：地域の公園

参加者：当事者3名、介護者1名、ボランティア、スタッフ

内容：お花見　ちらし寿司弁当で昼食会　ヨーヨーお手玉　カラオケ

参加者の様子

- ヨーヨーお手玉を使って体を動かしながら楽しく会話
- 当事者から希望のあったカラオケを実施し、屋外で設備が不十分ではなかったがそれぞれ楽しむことができた

2回目　本人ミーティング

場所：地域の喫茶店

参加者：当事者3名、介護者1名、ボランティア、スタッフ、市職員

内容：日課や参加している活動、活動に参加することによる自身の変化

参加者の様子

- 「自宅に籠るのではなく人と接することが大事だと気づいた」「今できることをやっていけたらいいんだと思うようになった」「自分に合う活動を見つける事ができ前向きになれた」等和やかに話ができ有意義な時間を過ごすことができた

令和7年度　年4回開催

３回目　本人ミーティング

場所：地域の喫茶店

参加者：当事者4名、介護者1名、ボランティア、スタッフ、市職員

内容：茶話会＆青空の下でウクレレ・ギター演奏に合わせて歌う

今回は第2回本人ミーティングで「みんなで歌をうたいたい」と

リクエストあり当事者＆支援者の伴奏で歌集を見ながらみんなでうたいました

参加者の様子

- 回を重ねることで参加者同士が顔なじみとなり
  リラックスした雰囲気で思いを話すことができている
- また参加したいという意見が多く皆さんに喜んでもらえたと感じた

懐かしい歌ばかりだから
全部うたえる♪

こんなに大きな声で
うたったのは久しぶり

みんなでうたえて
すごく楽しい

アンコール

アンコール

令和7年度　年4回開催

４回目　本人ミーティング＆介護者のつどい

場所：地域の定食屋

参加者：当事者5名、介護者3名、ボランティア、スタッフ、市職員

内容：食事を楽しみ、お茶を飲みながら近況報告

今回は、介護者のつどいで本人ミーティングの話題になり「そういう集まりがあるなら行ってほしいけど、一人なら行かないと思う…」そんな声から『じゃあコラボしてみよう』と企画しました

参加者の様子

- 初めて参加された方は落ち着かない様子がみられたが、数回参加されている方が話しかける場面がみられた
- 介護者も他の当事者と話す様子を見ることができたり介護者同士での会話も弾んでいた

開催に関しての課題

①メンバーの固定

- 声をかけても断られる
- 参加できそうな方が見つからない
- 自分で来ることができず、家族の送迎もできない方への対応

参加者本人からみえてきた生活のしづらさ・不安

- 体力的に自転車で図書館に行くのが大変

移動図書館が
あったらなぁ

- 卓球クラブに所属しているが、卓球仲間の認知症に対する理解不足により、参加しづらくなってきた

したい事ができない
仲間が減るなぁ
出かける機会が減るなあ

- いき百の日時を忘れてしまい、参加できなくなった
- 一人で散歩に行かなくなった

一人で歩いていたら
変に思われるかも

- 帰りがわからなくなり通行人に道を聞いただけで救急車を呼ばれた

方向を知りたかっただけなのに

本人の声からみえてきた地域課題

① 「その人らしい生活のしづらさ」を解消するための社会資源の不足
② 地域の方や仲間の認知症に関する理解不足

物忘れにより、約束の日時を忘れたり、移動手段の不足、仲間や地域の方の認知症についての理解不足などにより、少しずつ社会参加の機会が減少している。その結果、したいことが出来ない、行きたいところに行けなくなってきているという状況がみえてきた。また、地域包括支援センターとしても、そのような当事者の方たちの状況や思いを捉えているが、楽しみや生きがいを取り戻すことが出来るような地域づくり、取り組みに発展していない。

認知症地域支援推進員としての思い

現状として、本人の声を発信する機会は多くないと感じる。
本人ミーティングの場だけではなく、家族や地域の方も日頃から本人からのメッセージに耳を傾けるといった意識を持つことも必要なのではないでしょうか。
当センターでは限定された地域での開催となっているが、開催地域を増やし、今後も本人の声を聴き、「生活のしづらさ」の理解に努め、そこから見えてきた地域課題について地域住民や支援者等に向けて、情報発信を続けていきたい。